



1. 文化協会発展に貢献した人々に感謝状を贈呈
2. 30周年記念として、協会の合言葉である「心華」手ぬぐいを作成。題字は藤岡抱玉先生
4. 記念名人会で声楽を披露した國廣由佳さん
5. できたばかりの「義農万歳」に合わせて舞う満田会長



ふるさと学習室では作品展開催



「松前え〜とこ 60 選かるた」

町内の3校区から20ずつ文化財や名所などを選び、読み札は小中学生や町民から公募した500余りの中から採用。絵札は文化協会西公民館絵手紙部の協力で作成しました。

かるた販売期間 5月31日(金)まで
(売り切れの場合はご容赦ください)
販売価格 この期間に限り1箱800円
販売場所 松前町社会福祉協議会事務所(福祉センター1階)
☎松前町文化協会事務局 ☎985-1313



Report 2

松前町文化協会創立 30 周年記念式典

30周年を祝い「心華」を誓う

2月10日、松前総合文化センターで行われた松前町文化協会創立30周年セレモニー。これを出発点にして、新しい町民文化を創造していくことを誓いました。

同協会は昭和57年3月に発足。以来、町民の文化活動の要として、さまざまな活動を展開しています。現在、同協会の加盟は絵画、写真、茶道、華道、コーラス、演劇、短歌、吟詠など34部門・102団体にのぼり、会員数は1129人。それぞれ地域に根ざした独自の文化活動を行っています。

満田泰三会長は「私たち文化協会は、一人一人の心に華やかな花を咲かせようと『心華』を合言葉に活動を続けています。これまで文化活動に貢献してくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。今後も力を結集し、松前を県下の文化協会に、そして全国に発信する文化活動をしていきます」とあいさつ。町民文化活動の発展に貢献し、功績のあった32個人、2団体に感謝状を手渡すなどして、長年の労をねぎらいました。

これに対し、受賞者を代表して、特別功労賞を受賞した大政掌さんが、「絵を描くことで仲間ができ、仲間と一緒に文化活動することで地域づくりができること自体が私の喜びであり、生き甲斐でした。そのことを評価していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も微力ながら努力していきたい」と謝辞を述べました。

この後、30周年を記念して行われた「フォトコンテスト」「松前え〜とこ60選かるた」「義農万歳」の入選作品を披露し、受賞者を表彰。作品を通して会場の人々で松前の魅力を分かち合いました。

式典の最後には、記念名人会として書道パフォーマンス、舞踊、完成したばかりの義農万歳などが披露され、30周年に花を添えました。

Check!

*特別功労者

- 大政掌さん(写真部)
- 玉井秋生さん(読書部)
- 平井屯さん(郷土史部)
- 水口義一さん(囲碁部)



1. ロゴを使ったグッズでレイアウトし、松前町の商品をPRしたブース。大勢の人が足をとめた
2. (有)加納海産のいりこ
3. オープン初日にあいさつする白石町長
4. 中村知事も応援に駆け付けPR
5. 試食をする家族連れ

「いらっやいませー。愛媛は松前町からやってまいりました。いかがですかー」

名古屋市内の名鉄百貨店に、町内の事業者、町職員、県職員の声が響きます。これまで「松前町」を前面に出したPRをしてこなかった本町。町内の事業者と連携して、ブランド力向上と魅力発信につなげようと、愛媛県の協力を得てプロジェクトを始めています。その第1段として取り組んだのが、「愛媛・まさき町うまいものフェア」です。(株)龍宮堂、(株)つるさき食品、(有)加納海産、ギノーみそ(株)、(株)世起の町内5業者が参加しました。

松前町を効果的に全国にPRするため、グラフィックデザイナーの山内敏功さんの協力で、読み方を強調したロゴも作成。ロゴを使ったのれんなどでブースをレイアウトし、全ての商品にロゴシールを貼って販売しました。

「まさきちょう?」一際目立つ松前町のブースに、大勢の買い物客が足を止め、店頭に並ぶ珍味、ちりめん、麦みそ、お菓子などに目を向けます。反応は上々でした。ギ

ノーみそ(株)の東浦晃さんは「名古屋は赤みそ文化。不安もありましたが、好評でよかった」と話していました。

フェア中は松前町や愛媛県出身者も多く訪れ、ふるさとを懐かしんでいました。本村出身の亀井洋志さん「チラシを見て松前のうまいものって何だろうと思って来た。いろんな商品があって驚いた」と話していました。商品購入者の中には「おいしかったから」と来てくれるリピーターも多く、松前の味は大勢の人の心をつかんだようでした。

県町連携で行った取り組みということで、中村時広知事も応援に駆け付け「都会では、その土地の特色があるものが受け入れられます。それはふるさとへの愛着につながります。今回の取り組みを機にどんどん売り出し、道を開いてほしい」とエールを送りました。白石勝也町長は「松前町は全国では知名度がありません。第1の目的は町をPRすること。私自身フェアを2日間見て、効果があったと感じています。これで終わらせないで、いろんな地域へ松前を売り出していきたい」と話していました。



ロゴシールを貼った商品

Check!

のれんの「まさき」に大勢の人が視線を向け、町に興味を示していました



6. 「はいどうぞ」かわいいお客さんに試食をすすめる
7. 試食をした人の多くが商品を購入

